

# 総会議案書



1999年の第1回国際ワークキャンプで間伐したスギ・ヒノキ林  
当初は林床が薄暗くほとんど植物は生えていなかったが、20年後  
には写真のように緑豊かな林床になった（2019年7月撮影）

日時 2020年5月  
書面開催

富田林の自然を守る市民運動協議会

# 総会次第

## 議事

第1号議案	2019年度	事業報告	・・・・・・・・・・	P. 1
第2号議案	2019年度	決算報告	・・・・・・・・・・	P. 19
第3号議案	2019年度	会計監査報告	・・・・・・・・・・	P. 20
第4号議案	2020年度	事業計画(案)	・・・・・・・・・・	P. 21
第5号議案	2020年度	予算(案)	・・・・・・・・・・	P. 23
第6号議案	2020年度	役員(案)	・・・・・・・・・・	P. 24

## 第1号議案 2019年度 事業報告

### I. 2019年度の活動の概要

当協議会の活動は大きく分けて①自然環境保全の直接的な活動、②自然にかかわる文化的な活動、③自然観察、調査研究、提言活動を行っている。具体的には①に関しては「里山ホリデー」、「中野町竹林整備（市街化地域の自然保護）」、②に関しては「米作り体験（田植え、稲刈り、稲こぎ）」、「春の野草を食べる会」、「里山クラフト」、「どんどこ餅つき」、「里山生活入門」、「自然観察会（植物、昆虫、野鳥、水生生物）」、③に関しては「自然観察会（②と共通）」、「自然環境活用調査への協力」、「〈富田林の自然〉誌の発行」、「生物多様性保全に関する取り組み」などである。①および②の活動については富田林の自然を守る会（以下守る会と略す）が行う活動の中で上記の行事を主催している。また、守る会以外の協議会参加団体の活動への支援・援助も行った。

一方、守る会は2019年度で設立30周年であり、2019年度を起点とする30周年記念事業として、奥の谷において観察路の整備とその両側10mの里山的管理を実施することとした。また、2019年度に2つの助成金を得ている。一つは林野庁からの「森林・山村多面的機能発揮対策交付金（さともり交付金）」（年額84,000円×3年）であり、もう一つはアメリカの企業のUPSから「国際補助金プログラム」として45,990\$（4,963,700円）の助成を受けており、これは3年程度の事業として、「里山の観察路の整備」および「市街化地域内の竹林の整備」がテーマとなっている。また、守る会は上記のほか放棄田やその畦の草刈り管理や水生生物の保護などにも取り組んでいる。協議会における①の活動は主にこれらの事業の遂行にあてた。また、自然を守る会とNICE（日本国際キャンプセンター）との共催で国際ワークキャンプ、週末ワークキャンプなどが取り組まれているが、協議会はこれらの活動（特に国際ワークキャンプ）を支援し協力した。

### II. 具体的な活動

#### 1. 自然環境保全活動（生態系保全活動）

##### (1) 里山保全活動

表1に示すように協議会主催の「里山ホリデー（「里山保全と交流会」を含む）」では2018年9月4日に大阪を襲った台風21号による風倒木の処理および人工林の間伐を、主に観察路周辺を中心を実施した。また、竹のチップ作業、薪づくりやベンチづくり、木材置き場づくりなどその時々に必要な作業や参加者の状況に合わせて取り組んだ。2020年2月にはチェーンソーおよび草刈り機の使い方やメンテナンスについての安全講習を行った。3月には恒例のシイタケの植菌を行った。これらの活動への参加者数は延べ88人であった。

里山保全活動は、このほか守る会の主催で取り組まれた「里山保全作業」（毎月第一金曜日、「大阪シニア自然カレッジ里山部会」の人たちが多数参加；表2）、守る会とNICEとの共催事業（国際ワークキャンプ、週末ワークキャンプ、国際週末ワークキャンプ）、守る会が外部団体を受け入れ



竹林整備



チェーンソー講習会

No.	開催日時				行事名	作業内容	参加人数			備考	
	年	月	日	曜			大人	子ども	計		
1	2019	6	23	日	里山ホリデー	風倒木処理・田車押し	15	0	15	内NICE7人	
2		7	21	日	里山ホリデー	人工林の間伐	10	0	10		
3		10	20	日	里山ホリデー	ベンチづくり、木材置き場づくり、自然遊び	6	2	8	NICEが合流	
4		11	10	日	里山ホリデー	観察路上の風倒木処理、サツマイモと枝豆収穫	6	2	8	NICEが合流	
5		12	22	日	里山保全と交流会	竹のチップ作業、薪づくり、交流会	24	2	26	内NICE7人	
6		2020	2	9	日	里山ホリデー	チェーンソー&草刈り機講習会	10	0	10	講師：塩田広大氏
7			3	15	日	里山ホリデー	シイタケ植菌、薪づくり（玉切り）	11	0	11	
参加者数合計（延べ）							82	6	88		

回	開催日時				参加人数			作業内容	備考	
	年	月	日	曜	守る会スタッフ	シニア自然カレッジ等	計			
1	2019	4	5	金	3	18	21	竹林整備・畑作業		
2		5	3	金	1	14	15	竹林整備・畑作業		
3		6	7	金	—	—	—	—	雨天中止	
4		7	5	金	3	17	20	竹林整備・畑作業		
5		8	2	金	1	6	7	竹林整備・畑作業		
6		9	6	金	3	16	19	竹林整備・畑作業		
7		10	4	金	2	11	13	竹林整備・畑作業		
8		11	1	金	2	14	16	竹林整備・畑作業		
9		12	6	金	4	14	18	竹林整備・畑作業		
10		2020	1	10	金	4	13	17	竹林整備・畑作業	
11			2	7	金	2	16	18	竹林整備・畑作業	
12			3	6	金	—	—	—	—	中止（新型コロナウイルス）
参加人数合計					22	121	143			

て実施した事業〔「公益社団法人大阪自然環境保全協会（以後、保全協会と略す）」主催の自然環境市民大学（以後、市民大学と略す）、その他受け入れた講座など〕などでも実施された。これらの活動はすべて奥の谷の里山で実施された。

これらすべての里山保全活動を通じて、人工林約 20m×10m、竹林約 20m×10m、2018 年に台風被害を受けた人工林の一部、1998 年の台風で被害を受けた人工林の尾根道約 10m×10m などの観察路とその周辺などが整備された。

(2) 石川河岸段丘の竹林整備（中野町）

太古の石川の河岸段丘崖が石川左岸側に延びており、竹林を中心とする自然植生が虫食い状に残されている。これらの自然は里山の自然とは異なるが、市街化区域に隣接する自然として極めて重要であると考えられる。これらの中でも中野町の竹林は比較的まとまった形で残されている。協議会は 2009 年から自然豊かな地域の憩いの場として整備している。



整備が進んだ中野町竹林

UPS からの助成で新しいチップパーを購入したことで大変効率的にチップ化作業が行えるようになった。竹の伐採、チップパーによる竹のチップ化、東側法面および西側平坦地の草刈りなどが主な作業であった。

表 3 に示したように作業は雨天中止を除き 20 回実施し、延べ 107 人以上が参加した。また、表 4 に示すように守る会有志による自主的作業が 27 回行われ、竹林内の通路の両側への竹柵の設置、新しいチップパーの収納用の小屋の建築および南側法面および北側境界に奥の谷からのクサギの移植などが行われた。2019 年 12 月 12 日には新堂小学校 6 年生のボランティア授業を受け入れ、竹の伐採、ワークショップ、竹工作が行われた。

2. 文化的活動（自然とふれあい、自然に親しむ活動、自然への理解を深める活動）

(1) 米作り体験

奥の谷の水田（約 300m<sup>2</sup>）を借地し、米作りを実施。協議会の行事としては表 5 に示すように①田植え、②稲刈り、③稲こぎ（脱穀）を行った。稲刈りは予定日の 10 月 12 日が雨で順延となったため、一般参加者がなく、例年に比べて少人数で実施することとなった。そのためか稲こぎについても少人数での実施となった。三行事を通じた延べ参加人数は 44 人であった。水田の耕耘、苗代づくり等田植えの準備、田植え後の水の管理、田の草取りなどは守る会が行った。

(2) その他の文化的行事

表3 中野町竹林整備

年	開催日時				参加人数			作業内容
	月	日	曜	大人	子ども	計		
2019	4	6	土	8	0	8	伐採竹の運搬	
	4	21	日	10	1	11	タケノコ掘り	
	5	4	土				竹林整備	
	5	19	日				竹林整備	
	6	1	土				竹林整備	
	6	16	日	8	0	8	竹林整備	
	7	6	土	3	0	3	東法面、西平地の草刈り、上部平地の整備	
	7	28	日	—	—	—	中止（雨天）	
	8	3	土	6	0	6	竹林整備	
	8	18	日	8	0	8	竹林整備	
	10	5	土	5	0	5	竹の伐採、チップパー作業	
	10	14	日	—	—	—	中止（雨天）	
2020	11	4	月	6	0	6	竹林整備	
	11	17	日	2	0	2	竹林整備	
	12	7	土	7	0	7	竹林整備	
	12	15	日	9	0	9	竹林整備	
	1	19	日	5	0	5	チップパーオイル交換など	
	1	25	土	2	0	2	竹林整備	
	2	1	土	8	0	8	チップパー作業、竹間伐	
	2	23	日	5	0	5	チップパー作業、草刈り	
	3	7	土	9	0	9	竹林整備	
	3	28	土	5	0	5	竹林整備	
	参加者数合計（延べ）				106	1	107	

表4 中野町竹林整備

年	開催日時				参加人数			作業内容
	月	日	曜	大人	子ども	計		
2019	9	15	日	1	0	1	草刈り	
	11	23	土	1	0	1	竹林整備	
	11	30	土	2	0	2	竹林整備	
	12	25	水	2	0	2	チップパー作業	
2020	1	5	日	1	0	1	チップパー作業	
	1	16	木	1	0	1	チップパー小屋づくり	
	1	17	金	1	0	1	チップパー小屋づくり	
	1	20	月	1	0	1	チップパー小屋づくり	
	1	21	火	1	0	1	チップパー小屋づくり	
	2	3	月	1	0	1	チップパー小屋づくり	
	2	4	火	1	0	1	チップパー小屋づくり	
	2	7	金	1	0	1	チップパー小屋づくり	
	2	13	木	2	0	2	チップパー小屋建築、椅子作成	
	2	14	金	1	0	1	チップパー小屋建築、椅子作成	
	2	15	土	2	0	2	チップパー小屋建築、椅子作成	
	2	21	金	1	0	1	チップパー小屋建築、椅子作成	
	2	22	土	4	0	4	チップパー小屋建築、倒竹整理	
	3	1	日	3	0	3	竹柵づくり	
	3	2	月	1	0	1	竹柵づくり	
	3	3	火	1	0	1	竹柵づくり	
	3	11	水	3	0	3	倒木玉切り	
	3	12	木	1	0	1	東側法面	
	3	16	月	1	0	1	東側法面	
	3	17	火	1	0	1	東側法面	
	3	18	水	2	0	2	東側法面	
	3	25	水	1	0	1	東側法面	
	3	28	土	5	0	5	竹林整備	
参加者数合計（延べ）				43	0	43		

表5 米作り体験

回	行事名	開催日				参加人数			内容	備考
		年	月	日	曜	大人	子ども	計		
1	田植え	2019	6	8	土	22	5	27	手植え	
2	稲刈り		10	13	日	8	0	8	ノコギリ鎌、はぜかけ	予定日（12日）が雨のため順延（一般参加）
3	稲こぎ		11	2	土	9	0	9	足踏み脱穀機、篩、唐	
参加者数合計						39	5	44		

その他の文化的行事を表6に示す。「春の野草を食べる会」、「里山クラフト」、「どんどもちつき」、「里山生活入門」を実施した。四つの行事を合わせて延べ115人が参加した。

① 野草を食べる会

みんなで摘んできた野草をについて解説し、調理した。メニューはヨモギ団、ヨメナ・タケノコご飯、野草のおひたし(セリなど)、ノビルのぬた、タケノコの木の芽和え、各種野草の天ぷらなどであった。この行事は毎年大変好評で、前年よりは少なかったが、老若男女36人が参加。にぎやかで楽しい催しであった。

② 里山クラフト(蔓細工を中心に)

11月23日(祝)に佐々木氏を講師に実施した。午前中は山に入りフジ、アケビ、アオツツラフジなどの蔓を採取し、午後はそれを用いて籠やリース作りを行った。子どもを含め15人の参加であった。

③ どんどもちつき

1月12日(日)に実施した。最初に書初めを行い、続いてどんどもちつきを行った。そのあともちつきを行った。きな粉もち、あんこ餅、雑煮などを作り、みんなで楽しく食べた。どんどの準備は前日に守る会とNICEで行った。子どもを含め56人の参加であった。

④ 里山生活入門

2019年度から新しく始めた行事である。「嶽の会」が中心で取り組んだ。参加者は8人と多くはなかったが、じっくりと里山生活を味わうことができた。



里山生活入門

表6 その他の文化的行事

回	行事名	開催日時				参加人数			内容	備考
		年	月	日	曜	大人	子ども	計		
1	春の野草を食べる会	2019	4	29	日	31	5	36	野草の採取、食べられる植物の説明、調理(ヨモギ団子、タケノコご飯、ヨメナご飯、各種てんぷらなど)	
2	里山クラフト		11	23	土	10	5	15	蔓植物の採取、つる細	
3	どんどもちつき	2020	1	12	日	40	16	56	書き初め、どんどもちつき	内NICE6人
4	里山生活入門		1	26	日	6	2	8	里山見学・焚火・薪割など	
参加者数合計						87	28	115		

3. 自然観察・調査研究・政策提言活動など

(1) 自然観察

自然観察会は表7に示すように、「植物観察会」、「水の生き物観察会」、「昆虫観察会」、「野鳥観察会」、「春を見つける観察会」を計画したが、「水の生き物観察会」、9月の「植物観察会」、「野鳥観察会」および「春を見つける観察会」の4つの観察会が雨天中止となった。実施した観察会を通じての延べ参加者数は73人であった。

① 植物観察会

4月の観察会は奥の谷のみかん小屋周辺で実施、一面にウマノアシガタが咲く放棄田やウラシマソウなどを観察した。6月は金剛福祉センター～観心寺のコースで、ちょうど見ごろであったシライトソウを観察した。また、10月のどんぐりの観察会ではツブラジイ、シリブカガシなど5種のどんぐりを観察した。

② 昆虫観察会

7月20日(土)に実施した。午後3時に集合し、昼間はトンボやチョウを捕りながら山野を歩き、バイトトラップ(バナナ)を樹木などに仕掛けた。夕食後山裾に設置したライトトラップを点灯した。日没後、樹液にきている昆虫やバナナトラップにきている昆虫を観察しながら真っ暗な山中を懐中電灯を頼りに歩いた。子どもたち17人を含め54人が参加した。山口龍治氏を講師に迎え採集した昆虫の同定を行った。ノシメトンボ(大阪府の絶滅危惧種)、ミズスマシ(大阪府、環境省の絶滅危惧Ⅱ類)など45種の昆虫を観察した。

表7 自然観察会

回	行事名	開催日時				参加人数			観察した生き物	備考
		年	月	日	曜	大人	子ども	計		
1	植物観察会		4	20	土	5	0	5	草本25種、木本6種	奥の谷(みかんごや周辺)
2	植物観察会		6	2	日	5	0	5	草本39種(外来種16種、41.0%)、木本12種。シライトソウが見ごろであった。	金剛福祉センター～観心寺
3	水の生き物観察会		6	30	日	—	—	—	中止(雨天)	
4	昆虫観察会	2019	7	20	土	37	17	54	オオカマキリ、ニイニイゼミ、マメコガネ、ヒメウラナミジャノメ、シオカラトンボ、クサキリ、ミヤマクワガタなど45種	奥の谷(ネッティング・ライトトラップ・バナナトラップ)
5	植物観察会		9	21	土	—	—	—	中止(雨天)	
6	植物観察会		10	27	日	6	3	9	ツブラジイ、アラカシ、コナラ、マテバシイ、シリブカガシの5種のどんぐりを観察	奥の谷(どんぐりを探そう)
7	野鳥観察会		2	17	日	—	—	—	中止(雨天)	
8	春を見つける観察会	2020	3	8	日	—	—	—	中止(雨天)	
参加人数合計(延べ)						48	20	73		



シライトソウ

(2) 自然環境保全活用調査

富田林市が里山倶楽部に委託した調査に、協議会が協力して調査に参加した。今回の調査は富田林市の「生物多様性地域戦略」の策定に向けたデータ収集として、既存の文献から市域に棲息する魚類の情報をピックアップしたものである。また、補足調査として「廿山2丁目開発予定地」の実地調査に参加した。活用調査その18として調査報告書にまとめられた。本経過報告の末尾に調査概要を掲載する。

(4) 冊子「富田林の自然」No. 18の発行

発行準備中。

(5) 守る会などによる調査

①モニタリング 1000 里地調査 (以下モニ 1000 と略す)

モニ 1000 里地調査は環境省が日本自然保護協会 (以後 NACS-J と略す) に委託して実施している調査で、守る会は 2009 年から植物およびチョウの調査を奥の谷で行なっている。2019 年は 11 年目となる。

NACS-J は過去 10 年間のモニ 1000 の全国のまとめを公表した。この中ではオオムラサキやイチモンジセセリなど里山にごく普通に生息する昆虫が 10 年間で大きく減少していると警告した。守る会は全国交流集会で奥の谷での調査結果を報告した。それによるとチョウの結果でイチモンジセセリとヤマトシジミが大きく減少していることが分かった (図 1)。

③錦織公園の植生調査への協力

守る会は保全協会の都市公園自然調査研究会が行なう錦織公園での調査に協力した。ここでの調査はルートセンサスにより植生調査を中心に植物以外の生物についても調査した。3 月にこれまでの調査果の報告会を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染防止のため延期となった。

④その他 調査への協力

守る会は大阪府立大学のフクロウ調査に協力した。奥の谷に設置した巣箱にフクロウが営巣し、5 月に 2 羽の雛の足にリングを装着した。また、他の巣箱にはムササビが入っているのが確認された。

減少傾向が見られた種

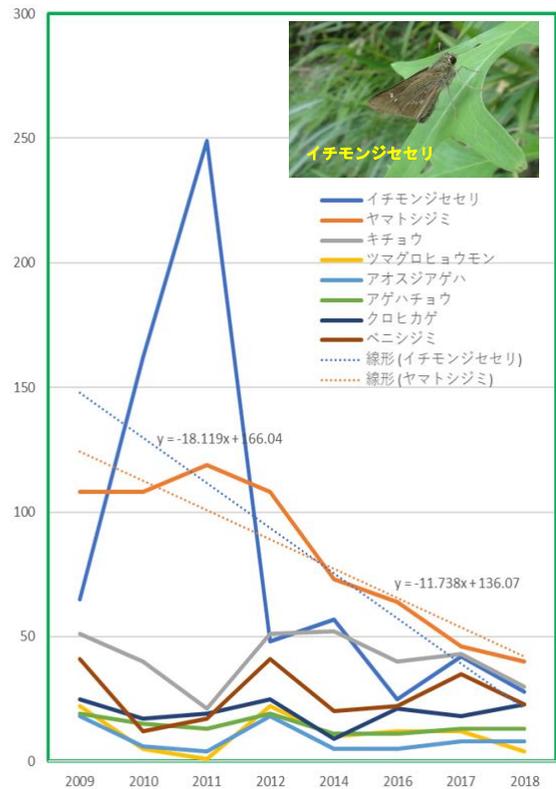


図 1 奥の谷におけるチョウの調査結果

4. 自然保護活動への支援・援助

(1) 国際ワークキャンプ

表 8 に示すように、「国際ワークキャンプ大阪富田林 2019」が NICE と守る会の共催で 8 月 29 日 (木) ~9 月 12 日 (木) の間、奥の谷と中野町竹林で実施された。奥の谷での国際ワークキャンプは 1999 年に 1 回目が開催され、2019 年は 21 回目の開催であった。これまでは奥の谷の「みかん小屋」に宿泊してのキャンプであったが、2018 年のキャンプ中に台風 21 号が大阪を直撃し、「みかん小屋」前の杉の大木が倒れた。幸い小屋に被害はなかったのだが、安全を考慮して 2019 年は宿泊場所を中野町に新設された民泊を借りて行った (民泊からは宿泊料など大きなサービスをしていただいた)。

①人工林の間伐、②竹林の整備 (中野町) を実施した。8 月 31 日 (土) に歓迎会が行われ、富田林市から産業環境部長、みどり環境課長、みどり公園係長が来賓として参加、市長からのメッセージが紹介さ



習字のイベント

れた。キャンパーは外国人4人(オランダ2人、カンボジア1人、メキシコ1人)、日本人3人が参加した。ワーク以外にはスライドショー(里山保全と生物多様性、奥の谷の四季)、ディスカッション(各国の環境問題)、クラフトづくり(竹細工など)、着付け、じないまち見学、習字、ホームステイを行った。スタッフを含め地元などから延べ128人が参加した。国際ワークキャンプには協議会から100,000円の財政支援を行った。

宿泊施設を「みかん小屋」から民泊に替えたことにより安心・安全が確保されたこと、守る会スタッフの負担が大きく軽減したことなどのメリットがあった。しかし、費用が増したことに加えて、キャンプリーダーからは便利で快適すぎてキャンプの一体感が薄れたとの感想が聞かれた。

表8 国際ワークキャンプ富田林2019

月	日	曜日	午前	午後	夜	参加者数			
						キャンパー	地元	子ども	計
8	29	木		13:00富田林駅集合 柴辻民泊に移動		7	5		12
	30	金	プレゼン「生物多様性と里山保全」&「奥の谷の四季」(10:00~12:00)	ワークのオリエンテーション 作業のデモンストレーション		7	4		11
	31	土	ワーク①(9:00~12:30)	クラフト	歓迎会(17:00~19:00)	7	29		36
	1	日	ワーク①(9:00~12:30)	クラフト		7	11		18
	2	月	ワーク①(9:00~12:30)	ディスカッション	ホームステイ(16時~)	7	6		13
	3	火	フリーデー		21時に富田林駅に集合	7			7
	4	水	ワーク①(9:00~12:30)	習字		7	10		17
	5	木	ワーク①(9:00~12:30)			7	8		15
	6	金	フリーデー		21時に富田林駅に集合	7			7
	7	土	ワーク①(9:00~12:30)	お茶		7	9		16
	8	日	ワーク②(9:00~12:30)	流しソーマン	ホームステイ(16時~)	7	8	4	19
	9	月	フリーデー		21時に富田林駅に集合	7			7
	10	火	ワーク②(9:00~12:30)	じないまち見学		7	6		13
	11	水	ワーク②(9:00~12:30)	さようなら会準備	さようなら会(18:00~20:00;キャンパー主催);会場は黒田吉民家	7	21		28
	12	木	片付け、総括	昼食後解散		7	7		14
参加者数合計						105	124	4	233
			ワーク①:人工林の間伐、	ワーク②:竹林整備(中野町)					

## 5. 協議会参加団体の活動

### (1) 金剛の自然環境を守り育てる会

2007年近隣の住宅開発によって失われる自然環境に危機感をもち、寺池台3丁目の住民有志が立ち上げた会である。会員の減少と高齢化により、活動自体は錦織公園につながる遊歩道の整備を月2回行っているというささやかなものである。寺池台3号公園も含め野鳥も多くこの環境を次世代に渡していきたいと思う。

連絡先：〒584-0073 富田林市寺池台3-15-10 喜田光子 TEL/FAX 0721-28-4737

### (2) 特定非営利活動法人 里山倶楽部

里山倶楽部は、「新しい“里山的”生き方・暮らし方の提案」をコンセプトとして、里山の保全管理や環境教育に関するさまざまな事業を行なっています。会員は約120名。河南町の里山や富田林市の嶽山ふもとの果樹園などで、ボランティアの仲間が楽しみながら、雑木林や棚田、果樹林の保全活動を行なっています。

<講座および自由参加活動>

- 里山ボランティアの日(里山体験) ●里山日和(里山体験)
- 里山っ子クラブ(子供対象) ●もりあん(技術講習)
- 弘川千年の森(協働事業) ●ツリーイング(木登り)
- 里山と暮らす応援講座(里山実習)
- 源流米パラダイス(棚田の保全活動)
- スモールファーム自給塾(農業研修)

<生産販売事業>

- 里山事業部(森林作業請負、炭・薪等の生産販売)
- 里山倶楽部自然農場(無農薬米、野菜等の生産販売)

<まちづくり・調査研究活動>

- 里山バイオマスイネルギー事業部(薪炭林のエネルギー化研究)
- 里山環境教育オフィス(企業・行政との協働事業、ワークショップ等の受託事業)

連絡先：寺川裕子、〒584-0024 富田林市若松町4-20-6, TEL 072-333-0309

### (3) 石川自然クラブ

石川自然クラブは、石川の自然について学び、考え、調べ、遊び、行動することを通じて、石川本来の川の流れや河原の自然環境をとりもどし、地域の暮らしと共生する自然豊かな川づくりを行なうことをめざして、以下のような活動を行っています。

- ① 石川の自然や生きものについての学習・観察・調査



刈払機の技術講習

- ② 子どもたちが石川の自然を体験できる機会の提供
- ③ 石川の自然についてのPR活動
- ④ 石川の自然にふさわしい整備や管理についての共生型技術の検討・提案
- ⑤ 地域の人たちや市民団体、行政や専門家との協働の場づくり
- ⑥ 石川流域におけるネットワーク活動

毎月一回、第二木曜日に、石川に生息する希少な生きものを守る「自然ボランティア」活動、各季節に植物・魚・昆虫・動物・野鳥の自然観察会も実施しています。また、「石川自然公園自然ゾーン計画運営協議会」では、行政や地元町会と協働して石川の自然についての様々な取り組みを行っています。

連絡先：寺川裕子, 〒584-0024 富田林市若松町 4-20-6, TEL 072-333-0309



オギ草地の管理作業

#### (4) 嶽の会

##### \* 富田林の自然を守る市民運動協議会での活動

2020年1月26日午前9時、今年度から、「里山生活入門」と称して、奥の谷の自然を満喫できる内容に変更しました(昨年までは自然観察路整備)。

最初に「里山とは？」の簡単な説明の後、雑木林、間伐を進めている植林、整備中の竹林、炭焼き窯などを案内し、奥の谷(里山)の現状を見て歩きました。その後、薪割り、たき火、稲わらでの縄づくりなどを体験してもらい、最後はかまどを使って昼ご飯を一緒に作りました。

一般参加は一家族(大人一名子ども二名)だけでしたが、参加者全員(八名)たき火を囲んで楽しく食事・交流ができたと思います。



焚火

##### \* その他の自然保護活動

2019年度も会員の高齢化、同居家族の介護、本人の病気など、思うような活動はできませんでした。コロナ禍が治まったら里山保全の活動から再開したいと思っています。

連絡先：上角敦彦, 〒584-0024 富田林市若松町 4-6-29, TEL 0721-24-8757

#### (5) 竜泉・里山クラブ

例年の作業として・みかん農園の手伝い(剪定枝の収集、摘果、採果など)

- ・民間の放置竹林の間伐整理(3か所)・竹炭・竹酢液作り、小屋周辺のクヌギを間伐しての原木シイタケの栽培など行いました。
- ・小屋裏の栗園の管理もあります。
- ・また里芋、さつま芋、隼人瓜は各種イベントでの販売のため栽培しています。

- ・数年前から小屋の前の土地を開墾し、会員各々の発想で柿、キウイ、ウド、ヘチマ、えんどう豆、南瓜、下仁田ネギ、小菊などの栽培が定着しています。

19年度は何ととっても、養蜂が軌道に乗ったことです。ミツバチグループの努力の甲斐があつて、2キログラムの蜜が取れました。今後はさらに研究を進め、蜜を販売することが目標です。

また会員の高齢化に伴い、除草作業中に足を滑らしたり、熱中症に罹ったり、マダニに咬まれたりと安全対策が求められています。

当クラブは地域との交流を図るため、小学校への工作教室の出前講座や放置竹林の間伐、台風で荒れたハイキングコースの整備、年末は小屋近辺の溝掃除を行っています。

連絡先：中島正博, 〒586-0094 河内長野市小山田町 3079-8, TEL 090-7118-2517



ニホンミツバチの飼育

#### (6) NICE 富田林チーム (週末ワークキャンプ活動報告)

2019年4月より、5、6、7、11、12月及び2020年1、2月と週末ワークキャンプを開催しました。また、週末ワークキャンプへの参加は、7回で約70名でした。

活動としては、富田林の自然を守る会のご指導・ご協力のもと、間伐、草刈などを実施。また、里山ならではの四季折々の行事（虫観賞、昆虫観察会、猪解体等）やクラフト（スプーン削りだし）も行い、いずれも参加者から好評でした。

一昨年度の西日本豪雨や台風21号等の影響で倒木や遊歩道の流れた箇所が多数ある中で、週末ワークにおいても遊歩道の開通を優先に、倒木の除去作業等を行うことができました。

しかしながら、未だマンパワーが必要な作業が多数存在するために、来年度以降も継続して参加者増の取り組みを続け、一人でも多くの方に里山に関心を持ってもらうための活動を続けていく予定です。

一方で、リーダーが転勤により不在の状態となっており、後任の育成が課題である。また、コロナウィルスの流行による活動自粛要請も出されており来年度以降の活動については不透明な状況となっています



スギ・ヒノキ林の風倒木処理にて

## (6) 富田林の自然を守る会

協議会参加団体の内「守る会」の活動については協議会の活動と一体的な部分が多くそれらは上記協議会の活動報告に記載した。2018年度に引き続き以下に示す班による活動を行った。1. 炭焼隊、2. なんぼるがんぼる（南原）、3. 米づくり班（自然農・畑）、4. 薪づくり班、5. 中野町竹林整備班、6. 果樹班、7. 施設整備班、8. 里山工作班、9. 観察会班（植物、昆虫、野鳥、水の生き物）、10. 昼食づくり班、11. ミツバチチーム、12. 草刈り班。

連絡先：田淵武夫、〒584-0024 富田林市若松町4-16-21、TEL 090-8888-3912

## 年度の活動などで特徴的だったこと

1. 自然を守る会が設立30周年記念事業として「観察路とその両側10mの里山の整備」事業を開始した（2019年度をこの事業の初年度とする）。
2. 自然を守る会がUPSから45,990\$（4,963,700円）の助成を受けチップパー（木材破砕機）2台とチェンソーなどの機材・器具を購入した（事業：観察路の整備および市街地の竹林整備）。
3. 自然を守る会が林野庁の「森林・山村多面的機能発揮対策交付金（さともり交付金）」84,000円を受けた（森林資源利用タイプ：間伐材を利用した活動拠点の整備、イノシシ柵の設置、観察路の造成、薪づくり、竹炭の製造、竹チップによる堆肥の製造など）。
4. モニ1000里地調査全国交流集会で報告（植物とチョウの奥の谷での2009年～2018年のまとめ）。  
イチモンジセセリとヤマトシジミが大きく減少し、ヒメウラナミジャノメが増加していた。
5. 中野町竹林整備が大きく進んだ。
6. 中野町竹林の広場に2012年4月に記念植樹した桜が初めて花を咲かせた（フランスの青年2人が6ヶ月間NICE中長期ボランティアとして竹林整備参加した）。
7. 嶽の会担当の新行事として、「里山生活入門」を開催した。
8. 2018年度に引き続きコナラの古木にナラ枯れが多発した。



初めて咲いた記念樹のオオシマザクラ

## 7. 会議

### (1) 役員会

2019年4月19日（金）、5月7日（火）、6月21日（金）、7月19日（金）、10月18日（金）、11月15日（金）、2020年1月17日（金）、2月21日（金）、3月19日（金）

### (2) 会計監査 2020年4月24日（金）

### (3) 総会 2020年5月（書面総会）

## 生物多様性保全のための基礎調査

～R1 年度「自然環境保全活用調査その 18」報告書より抜粋～

### (1) 富田林の魚類についての文献調査

#### ① 調査文献

富田林市の「生物多様性地域戦略」の策定に向けたデータ収集として、既存の文献から市域に棲息する魚類の情報をピックアップした。調査した既存文献はそれぞれ目的が異なりデータの精度もまちまちであるが、過去の魚類の記録として重要であり、生物多様性保全の基礎データになる。

今回調査したのは下記の文献であるが、このうち魚類の専門家による調査記録は、No.1、2、6、8 で、それに順ずる記録（魚類の専門知識をもつアマチュアによる）は、No.3、7、9、10 である。その他のNo.4、5、11、12、13 は一般ボランティアなどによる記録メモである。

#### No.1 石川に棲息する川魚の種類と変遷

- ・調査時期 1945 (S20) 年代～1985 (S60) 年代
- ・調査場所 石川
- ・調査者 石川に自然を取り戻す会
- ・掲載文献 「石川河川公園自然ゾーン整備手法作成委託（石川せせらぎ会議）」計画調査報告書 大阪府南部公園事務所, (社)大阪府公園都市緑化協会 1994 (H6) 3月

#### No.2 石川の魚類相の変遷

- ・調査時期 1972, 1977, 1982, 1987, 1991
- ・調査場所 石川
- ・調査者 不明
- ・掲載文献 「石川河川公園自然ゾーン整備手法作成委託（石川せせらぎ会議）」計画調査報告書 大阪府南部公園事務所, (社)大阪府公園都市緑化協会 1994 (H6) 3月

#### No.3 大和川水系・石川魚っ知 ing

- ・調査時期 1962～64, 1968, 1972, 1977, 1982, 1995
- ・調査場所 石川
- ・調査者 北端信彦(執筆)
- ・掲載文献 「東山 469」大阪芸術大学「場」の研究グループ 1996年 (H8) No.002

#### No.4 石川河川公園「自然ゾーン」ワークショップ 記録

- ・調査時期 2000年8月20日
- ・調査場所 石川
- ・調査者 出口佐和子
- ・掲載文献 「石川河川公園自然ゾーンワークショップ運営委託 報告書」 2001年 (H13) 3月

#### No.5 大阪府を中心とした河川に於ける水生生物の生息状況

- ・調査時期 2003 (H15)年
- ・調査場所 淀川、石川ほか 16 河川
- ・調査者 シニア自然大学研究センター水生生物科
- ・掲載文献 NPO 法人シニア自然大学 研究部 水生生物研究科 ホームページ

#### No.6 大和川水系・石川の魚類の現状

- ・調査時期 2004 (H16)年～2006 (H18) 年
- ・調査場所 石川本流、加賀田川、佐備川、千早川、梅川、飛鳥川
- ・調査者 花崎勝司、波戸岡清峰
- ・掲載文献 「自然史研究」大阪市立自然史博物館 2010年 VOL. 3. No.11

#### No.7 丘陵地のため池魚類相の現状

- ・調査時期 2010 (H22)年
- ・調査場所 羽曳野市、太子町、河南町、富田林市、河内長野市のため池
- ・調査者 吉村元基、浦部美佐子

- ・掲載文献 「琵琶湖を戻す会」Web（第六回「外来魚情報交換会」発表要旨）2010（H22）年

#### No.8 河川水辺の国勢調査

- ・調査時期 2012（H24）年
- ・調査場所 石川
- ・調査者 株式会社CPC
- ・掲載文献 国土交通省／大阪府富田林土木事務所 エクセルデータ

#### No.9 大阪府南河内地域における魚類相

- ・調査時期 2014（H26）年
- ・調査場所 石川流域
- ・調査者 吉村元基、大門聖 ほか
- ・掲載文献 「地域自然史と保全」 関西自然保護機構 2014年 36巻2号

#### No.10 河内長野市・石川流域におけるアカザの再発見

- ・調査時期 2017（H29）年4月～2018（H30）年3月
- ・調査場所 河内長野市・石川流域
- ・調査者 大門聖、南河内水生生物研究会
- ・掲載文献 「足もとの自然史 Jr ジャーナル」第2号 同ジャーナル編集委員会 2019年2月

#### No.11 水の生き物池で観察した生物の記録

- ・調査時期 2014（H26）～2018（H30）年
- ・調査場所 富田林市奥の谷の池
- ・調査者 富田林の自然を守る会（田淵武夫ほか）
- ・掲載文献 未発表資料

#### No.12 石川河川公園 イベント実施記録

- ・調査時期 2018（H30）～2019（R1）年
- ・調査場所 石川（大黒橋、星の広場、駒ヶ谷地区等）
- ・調査者 雨ふる大地の水辺保全ネットワーク
- ・掲載文献 未発表資料

#### No.13 富田林奥の谷 採集記録

- ・調査時期 2020（R2）2月7日
- ・調査場所 富田林市奥の谷（ビオトープ、池、水路）
- ・調査者 シニア自然大学校 水生生物科・水辺環境調査会
- ・掲載文献 未発表資料

## ② 魚類目録の作成

これらの文献に記載された魚類すべてを一覧表とし、富田林市の魚類目録としてとりまとめた（富田林市内での調査が少ないため近隣地域の記録を含めた目録とした）。

魚類の総種類数は53種で、このうち、大阪府のレッドデータブック掲載種は23種、環境省のレッドデータ掲載種は10種であった。また特定外来生物および生態系被害防止外来種リスト掲載種は、6種（タイリクバラタナゴ、ニジマス、カダヤシ、グッピー、オオクチバス、ブルーギル）であった。なお、一般の人にもわかりやすいよう種名の記載は五十音順とした。

## (2) 生物多様性保全の取組みについて

## ① 調査結果のまとめ

## ●絶滅危惧種の状況

大阪府レッドデータブックの絶滅危惧Ⅰ類の魚類は1970～80年代以前の古い記録が多く、カワバタモロコが2010年に南河内のため池で確認されているほかは、近年の調査などでは確認されておらず、南河内の流域では絶滅している可能性が高い。Ⅱ類に入っているアカザは近年は姿を消していたが、2017～18年に再発見されており、生息地の環境状況が注目される。またⅡ類にはウナギやドジョウ、メダカ、準絶滅危惧種にはタモロコ、ナマズ、アユなど一般によく知られた種類が入っており、南河内の水域や石川流域でも、これらの生息環境の保全に留意する必要がある。

## &lt;大阪府レッドデータブック 2014 掲載種&gt;

## ※ 環境省レッドデータブック掲載種

## ・絶滅危惧Ⅰ類

- |              |   |                                       |
|--------------|---|---------------------------------------|
| 1. スナヤツメ     | ※ | (S20～30年代 石川)                         |
| 2. カワバタモロコ   | ※ | (1962～64, 1968, 1972 石川、2010 南河内のため池) |
| 3. ズナガニゴイ    |   | (1962～64, 1968, 1982 石川)              |
| 4. ツチフキ      | ※ | (1962～64, 1968 石川)                    |
| 5. ニッポンバラタナゴ | ※ | (1962～64, 1968 石川)                    |
| 6. ヤリタナゴ     | ※ | (S20～30年代、1962～64, 1968 石川)           |
| 7. スジシマドジョウ  |   | (S20～50年代、1962～64, 1968 石川)           |

## ・絶滅危惧Ⅱ類

- |            |   |                             |
|------------|---|-----------------------------|
| 8. ニホンウナギ  | ※ | (S20～30年代、1962～95, 1987 石川) |
| 9. イトモロコ   |   | (1968 石川)                   |
| 10. ドジョウ   | ※ |                             |
| 11. アカザ    | ※ | (1962～95、2017～18 石川)        |
| 12. ミナミメダカ | ※ | (2009～13 佐備川、石川)            |

## ・準絶滅危惧種

- |               |   |           |
|---------------|---|-----------|
| 13. タモロコ      |   |           |
| 14. ハス        | ※ | (1968 石川) |
| 15. シマドジョウ    |   |           |
| 16. ギギ        |   |           |
| 17. ナマズ       |   |           |
| 18. アユ        |   |           |
| 19. ウキゴリ      |   |           |
| 20. シマヒレヨシノボリ |   |           |

## ・情報不足

- |           |  |                         |
|-----------|--|-------------------------|
| 21. アブラハヤ |  | (1962～64、1968, 2012 石川) |
| 22. ウグイ   |  | (1991 石川)               |
| 23. アマゴ   |  | (1962～1995 石川)          |

## ●特定外来生物等の状況

調査記録のうち特定外来生物に指定されている魚類は、カダヤシ、オオクチバス、ブルーギルの3種、生態系被害防止外来種リスト※の掲載種は、タイリクバラタナゴ、ニジマス、グッピーの3種である。

### ※生態系被害防止外来種リスト

(我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 平成26年度公表)

生態系、人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼす又はそのおそれがあるものを生態的特性及び社会的状況も踏まえて選定した外来種のリストであるが、特定外来生物及び未判定外来生物以外は外来生物法に基づく規制の対象にはならない。

なお、本リストの作成をもって、要注意外来生物は発展的に解消される。

～環境省資料より抜粋～

### <目録に掲載した特定外来生物等の概要>

国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター「侵入生物データベース」Web ページより抜粋

#### カダヤシ



- ・国内移入分布：福島県以南の本州、四国、九州、沖縄、小笠原
- ・移入元：台湾
- ・侵入経路：ボウフラの駆除
- ・影響：メダカとの競合、仔魚・稚魚の捕食。
- ・問題点等：水田の水管理の在り方の変化がカダヤシに有利に働いている。極端な場合1尾のメスの侵入により個体群を確立することが可能である。メダカを駆逐しつつある水域もある。

#### オオクチバス (ブラックバス)



- ・侵入経路：1925年に釣り対象、食用として神奈川県芦ノ湖に導入
- ・影響：捕食や競争を通じ、様々な在来生物に直接的または間接的な影響を及ぼす。
- ・防除方法：稚魚のすくい取り、産卵床の破壊、人工産卵床の設置、地引き網等
- ・問題点等：バス釣り人口は300万とも言われバス釣りに依存した産業が形成されている。社会的側面を併せ持つ。

#### ブルーギル



- ・侵入経路：当時の皇太子殿下が訪米の際の手みやげとして持ち帰ったものを水産庁が各地の試験場などに分与した。各地で放流された。又、放流種苗に混入していた例もある。
- ・影響：捕食や競争により在来種に影響を与えている可能性がある。
- ・防除方法：特定の生活史段階や季節に集合する習性の利用、様々な種類の刺激など、捕獲対象を積極的におびき寄せる方法の開発が望まれる。モンドリでの捕獲も効果がある

#### タイリクバラタナゴ



- ・侵入経路：食用に移入されたハクレンなどの種苗に混入して関東に導入されたものが放流などにより分布を広げた。琵琶湖へは1960年代はじめに霞ヶ浦で養殖されたイケチヨウガイとともに船が運ばれたと推測される。
- ・影響：容易に交雑(ニッポンバラタナゴ)。産卵母貝の競合
- ・防除方法：池干し

## ニジマス



- ・国内移入分布：北海道，東京，和歌山（熊野川水系），中国地方
- ・移入元：米国カリフォルニア州
- ・侵入経路：養殖用，釣り用に放流
- ・影響：他のサケ科魚類と競合・交雑，甲殻類などの捕食。
- ・問題点等：水産庁主導の移殖経緯のためニジマスの生息に肯定的な見方を示す人が多い。本種の生態的影響等に関する知識の普及が必要である。

## グッピー



- ・国内移入分布：北海道，福島，長野，静岡，岡山，大分，鹿児島，沖縄の各道県，小笠原。
- ・移入元：南米
- ・侵入経路：観賞用として輸入され，放逐・逸出
- ・影響：不明

## ② 富田林の魚類について生物多様性保全の視点からの提案

### ●ため池の魚類調査

今回の文献調査で作成した目録のほとんどは石川本流を対象とした調査の記録で、支流の佐備川、千早川などの記録は、大阪市立自然史博物館の調査記録（No.6 大和川水系・石川の魚類の現状）のみである。また、富田林市や南河内に多数点在するため池の調査は、No.7 丘陵地のため池魚類相の現状、およびNo.9 大阪府南河内地域における魚類相 があるだけで、市域の多くのため池はほとんど調査がされていないと考えられる。近年に絶滅危惧Ⅱ類のカワバタモロコが南河内のため池で発見されるなどの例もあり、特に山間部などの人為的な影響が少ないため池に、希少種がひっそりと生息している可能性もある。市街地周辺のため池は、水田の減少や都市開発によって埋め立てられたり、周囲の環境や水質が激変することも多く、早急な調査が求められる。

### ●絶滅危惧種の保全対策

大阪府立環境農林水産総合研究所の図鑑データ※によると、今回の目録に掲載している絶滅危惧種について、以下のような生息数減少の要因が記載されている。石川本流をはじめ市域を流れる支流やため池についても、このような環境変化が進んでいると考えられるため、水辺の改修工事などの際には、事前の調査と魚類の生息に配慮した工事の工夫が必要である。またミナメダカなど地域の集団が見られる種類もあるため、外来魚だけでなく、同種であっても産地不明のものを安易に放流しないような啓発活動も重要である。

- |                          |             |
|--------------------------|-------------|
| ・小川や水路の減少、コンクリート化        | ・農業水路と水田の分断 |
| ・河川・溜池改修に伴う環境の悪化         | ・汚濁や農薬の使用   |
| ・道路工事、山林伐採、河川改修などによる土砂流出 |             |
| ・外来魚による食害                | ・水草帯の消失     |

<絶滅危惧種の生息数減少の要因>

**ドジョウ** 府内全域にも広く分布する。しかし以前は、身近にあった小川や水路などに生息し、水田などには特に多く生息していたが、小川や水路の減少、汚濁や農薬の使用にともない、生息数も少なくなってきた。



**アカザ** 環境省、大阪府レッドリストともに「絶滅危惧Ⅱ類」で、道路工事、山林伐採、河川改修などによる土砂流出により隠れ場所である石の隙間が埋まるなど生息条件が悪化し、生息数が減少している。大阪府でも河川上流には普通に生息していたようであるが、現在ほとんどの河川で姿を消している。



**メダカ** 以前は、身近な小川や水路などに広く生息し、浅い池沼、川の流れの穏やかな岸边などで見られた。しかし、小川や水路のコンクリート化、農業水路と水田の分断などにともない、生息地域の少なくなっている。府内でもほぼ全域に生息していたが、現在、メダカのすむ水辺であった水域では外来種のカダヤシが置きかわっている。



ミナミメダカ（メダカ南日本集団）は地域によってさらに9つの型に分かれ、府内の集団は 東瀬戸内型(※2)となる。これらの集団は、それぞれ独自の遺伝的特性をもつためヒメダカ他地域のメダカのみならず産地不明のメダカを放流することなどは厳に慎まなければならない。

**カワバタモロコ**

府内では淀川水系、大和川水系、泉州に分布。以前は平野部を流れる河川や水路にも分布していたが、現在では 山際の小さい溜池やこれにつながる水路などに残存するのみである。河川・溜池改修に伴う環境の悪化、外来魚による食害、水草帯の消失などにより減少した。



※大阪府立環境農林水産総合研究所の図鑑データより抜粋 (<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/zukan/>)

## ●身近な水辺の生き物と親しむ取組み

「富田林の自然を守る市民運動協議会」では、里山保全フィールドのうち棚田のひとつを「水の生き物池」として、メダカやアカガエルなどの水生生物や水辺植物を保全している。毎年6月にはこの池の生き物観察会を開催し、子供たちが中心となって生き物を捕獲して種類をしらべており、毎回約50人の参加がある人気のイベントとなっている。

また、石川流域の水辺をフィールドに活発な活動を行っている団体として「雨ふる大地の水辺保全ネットワーク」がある。石川河川公園や長野公園との協働で、本流・支流での魚とりや公園の修景池の水抜き調査などを年間10回以上実施している。羽曳野市では年1回、上記団体からのスタッフ協力をうけて石川河川公園との共催で「家族みんなで魚とり」のイベントを実施している。

これらの取り組みは、楽しみながら水辺の生き物への関心・理解を深める機会として重要であり、富田林市でももっと積極的に同様の活動に取り組み、地域の自然環境保全のベースとなる環境教育や人材養成を行うことが望まれる。



## ●外来種についての啓発

今回の目録には、特定外来生物等を魚類6種を掲載している。これらはいずれも全国的に問題となっているも種類で、在来生物に対する捕食や競争などで地域の生態系に大きな影響を与えており、観賞魚や飼育個体の安易な放流防止などへの啓発活動が今後必要である。

一方、近年は外来生物駆除に対する一面的なとらえ方への疑問も出てきている。石川河川公園では、上記「雨降る大地の水辺保全ネットワーク」による「外来種が悪いとか・悪くないとか」をテーマとした特別展示を開催して外来生物駆除の考え方に対する問題提起を行っている。魚類以外の生き物（植物、野鳥、昆虫など）も含め、在来種と外来種だけに単純化しない総合的な生物多様性保全についての議論・検討を行うことが今後は重要である。

四季の特別展示

外来種が 悪いとか・悪くないとか

2月2日～3月20日  
大阪府豊石川河川公園 ビジターセンター  
(石川河川公園管理事務所内)



「近頃、ため池の水を全部抜いて・・・などのTV番組が人気を博しています。番組を見ていると、「コイは外来種!」「ゲンゴロウブナも外来種!」などという言葉が出てきて、オオクチバスやアリゲーターガーなどと同じような扱いで取り上げられています。

そんな様子に少し疑問を持っている人も少なくはないのではないのでしょうか。「コイも悪いやつだから、川にいたらダメ!」「見つけたら駆除しないと!」と思っている幼い子どもも少なくはないのではないのでしょうか。

「外来種が悪いとか・悪くないとか」をテーマにみなさんと一緒に考える展示をおこないます。

## 2. 補足現地調査（廿山2丁目開発予定地）

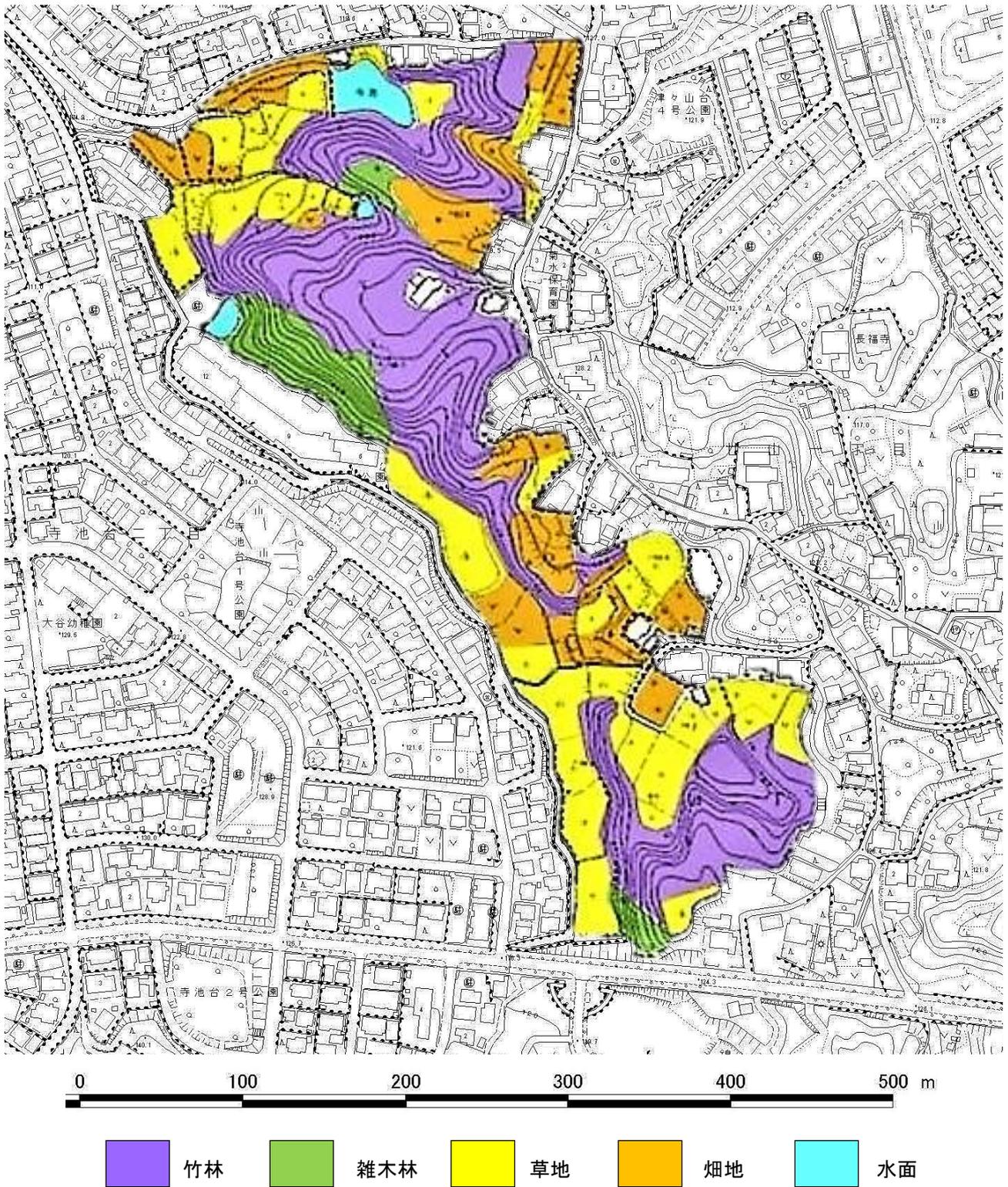
寺池台の地域住民から隣接する廿山2丁目の山林のマンション開発について相談があり、周辺の現地調査を行った（すでに造成工事が始まっていたため、敷地外から概況を確認した）。現況は既存マンションの北～東側に位置する小丘陵で、ほとんどが竹林（マダケ）に覆われ、谷部は放棄された畑地や雑草地になっている。竹林の中にはコナラやクヌギの大木が点在し、一部にため池が見られた。

調査日：2019（R1）年11月27日 調査者：田淵、喜田、寺川

<現地調査の航空写真（Yahoo地図）>



<植生概略図>



<確認した樹種>

コナラ、クヌギ、アラカシ、クスノキ、トウネズミモチ、ヒサカキ、エノキ、ムクノキ、サクラ sp、ヤブツバキ、アカマツ、マダケ、イヌビワ、ハゼ、ナワシログミ、マメガキ

<現地調査写真>

- 1) 既存マンション東側から見た対象地（すでに現況林は伐採されていた。）



- 2) 山裾に残された大木（アカマツ、コナラなど）



- 3) 駐車場に隣接する現況林の林縁には、雑木林のかん木類（ツバキ、ヒサカキなど）が見られた。



- 4) マンション北側の雑草地と伐採された対象地



5) 対象地の東側道路からの状況



6) 北側から見た対象地



7) 調査風景



## 第2号議案 2019年度（平成31年度）会計決算報告

収入					単位：円
項目	予算	実績			前年度実績
		金額	内 訳		
補助金	270,000	270,000	市からの助成金		270,000
行事参加費	110,000	69,900	生態系保全 (里山ホリデーなど)		23,100
			観察会 (昆虫観察会、植物観察会)		9,000
			米作り (田植え、稲刈り、稲こぎ)		11,700
			文化行事 (野草を食べる会、里山クラフト、どんどと餅つき、里山生活入門)		26,100
寄付金	300,000	430,654	「富田林の自然」		10,600
			NICE週末		18,000
			阪大ワークキャンプ		6,000
			中国2カ国ワークキャンプ		24,000
			富田林の自然を守る会より		351,752
			一般寄付		20,302
総計	680,000	770,554			844,830

支出					単位：円
項目	予算	実績			前年度実績
		金額	支出		
報償費	30,000	30,000			25,324
消耗品費	150,000	256,626	事務用品		73,391
			保全活動		100,587
			畑など		39,594
			その他		43,054
郵送費	10,000	919			7,011
燃料費	80,000	73,237	軽トラ		5,000
			作業機械		58,798
			発電機		8,819
			その他		620
賄い材料費	50,000	34,941			36,922
備品費	30,000	29,600			76,558
修理費	100,000	134,099			235,649
施設管理費	10,000	44,420	事務所電気代		4,912
			施設整備費		39,508
保険料	70,000	36,712			36,712
使用料	30,000	30,000			30,000
国際ワークキャンプ費	100,000	100,000			89,382
雑費	20,000	0			0
総計	680,000	770,554			844,830

次年度への繰越金 0円

市助成金（270,000円）対象分		
報償費	里山クラフト、「富田林の自然」原稿、チェンソー講習会	30,000
消耗品費	事務費、保全活動費、耕作費など	256,626
燃料費	作業機械、発電機、軽トラック	73,237
修理費	チップパー、軽トラ、その他の動力機械	134,099
国際ワークキャンプ費		100,000
合計		593,962

## 監 査 報 告 書

令和 2年 4月24日

富田林の自然を守る市民運動協議会  
会長 田淵 武夫 様

会計監事 富田林の自然を守る市民運動協議会  
理事 喜田 光子 

富田林の自然を守る市民運動協議会規約第6条に基づき、平成30年度会計に関する監査を下記のとおり実施したところ、次のとおりであったので報告します。

1. 実施日時 令和 2年 4月24日 (金) 10:00 ~ 11:30

2. 実施場所 富田林市役所 産業まちづくり部 農とみどり推進課

3. 監査結果

事 項	意 見	指 摘 事 項	備 考
事 業 等 の 実 施 状 況	問題なし	特になし	
会計事務の状況	問題なし	特になし	
そ の 他	特になし	特になし	
総 括		<b>適 正</b> ・概ね適正・不適正	

## 第4号議案 2020年度事業計画（案）

### 1. 自然環境保全活動

#### (1) 里山保全活動

「里山ホリデー」と称して里山保全の作業を下記の日程で行う。作業の内容は、雑木林の下樵り、竹林整備と竹林の拡大防止、人工林の管理（間伐、枝打ち、伐倒木の皮むきなど）、休耕田・放棄田・溜池の土手などの草刈り、果樹の手入れ、自然観察路（作業路）造成・整備などとする。場所は奥の谷および南原とその周辺で、時間は原則として毎回10:00～15:00頃とする。

日程：2020年5月23日（土；中止）、6月20日（土；中止）、7月18日（土；中止）、10月17日（土）、11月14日（土）、12月20日（日）、2021年2月13日（土）、3月13日（土）。なお、12月20日は「里山保全作業と交流会」と称して午前は里山保全作業を行い、午後は交流会とする。また、富田林の自然を守る会は30周年記念事業として協議会が2006年に提案した奥の谷周辺の観察路について、その両側約10mに里山的管理を実施する事業を開始している。雑木林の下樵り、竹林整備、人工林の管理についてはこの計画を踏まえて実施する。

なお、新型コロナウイルスが世界的規模で感染を拡大しており、日本においても5月時点で緊急事態宣言が出され、国民に自粛が要請されている。このような状況を踏まえて、当面はすべての行事を中止し、この状況が好転した時点で、役員会で慎重に判断して事業を再開することとする。

#### (2) 中野町竹林管理

中野町の河岸段丘および段丘崖の竹林を整備し、生物多様性を向上させるとともに地域の憩いの場所として活用することを目指す。下記の日程で作業を行う。作業は竹の伐採、チップ作業、伐採木の処理、草刈りなどである。また、適宜子どもを対象とした竹で遊ぶ会などを行う。時間は原則として毎回9:30～12:00とする。

日程：2020年4月4日（土）、5月2日（土；中止）、5月31日（日；中止）、6月1日（土）、6月14日（日；中止）、7月4日（土）、8月16日（日）、10月3日（土）、11月7日（土）、11月17日（日）、11月22日（日）、12月5日（土）、2021年1月16日（土）、2月6日（土）、2月28日（日）、3月6日（土）、3月21日（日）

### 2. 文化的行事

#### (1) 米作り体験

借地している奥の谷の水田で有機栽培による米作りを行う。収穫した米は原則として各種行事に使用する。

##### ① 田植え

日時：6月6日（土）10:00～15:00頃（予備日9日）。中止。

自主活動として守る会世話人などの有志で行う。

##### ② 稲刈り

日時：10月10日（土）10:00～15:00頃（予備日11日）。

##### ③ 稲こぎ

日時：10月31日（土）10:00～15:00頃（予備日11月1日）。

#### (2) 春の野草を食べる会

日時：4月29日（日；昭和の日）10:00～15:00頃。中止

場所：奥の谷。

#### (3) 里山クラフト

日時：11月21日（土）10:00～15:00頃。

場所：奥の谷。

#### (4) どんどこもちつき

日時：1月10日（日）10:00～15:00頃。

場所：奥の谷。

#### (5) 里山生活入門

日時：1月30日 10:00～15:00頃。

場所：奥の谷

### 3. 自然観察・調査研究・提言活動

#### (1) 自然観察

##### ①植物観察会

下記の日程でおこなう。原則として奥の谷を中心として実施するが、適宜地域を変更する。また、内容についても検討する。

日程:4月18日(土;中止)、5月16日(土;中止)、6月13日(土;中止)、7月12日(日;中止)、  
8月8日(土)、10月25日(日;どんぐり観察)、11月8日(日)。

##### ②昆虫観察会

子どもを中心に、ネットによる自由採集、バナナによるベイトトラップ、ライトトラップ、夜間ルート観察などを行う。

日時:7月25日(土)15:00~21:00頃。中止。

場所：奥の谷。

##### ③野鳥観察会

日時:2月21日(日)9:00~13:00頃。

場所：近鉄滝谷不動駅~石川~春日神社~奥の谷。

##### ④水の生き物観察会

「水の生き物池」で水生生物を採集・観察する。

日時:6月27日(日)10:00~13:00頃。中止。

場所：奥の谷。

##### ⑤観察会入門(春を見つけよう)

早春の動植物を見つける。

日時:2月27日(土)

場所：奥の谷

#### (2) 自然環境保全活用調査 その19

富田林市が里山倶楽部に委託して行う調査に積極的に協力する。

#### (3) 冊子「富田林の自然」No.19の発行

「富田林の生き物、自然景観、保全活動などを写真で紹介」、「専門家による自然保護に関する解説」、「富田林の生物調査などの紹介」、「自然環境保全活用調査の抜粋」、「協議会参加団体の活動紹介」、「協議会の活動報告」などを内容とする冊子を3月に発行する。

#### (4) 生物多様性保全の取り組み

2019年3月に「富田林市緑の基本計画」が改定された。また、「自然環境保全活用調査」においても2016年度より「生物多様性保全のための基礎調査」が行われてきている。これらの取り組みを踏まえて「生物多様性地域戦略」の策定に向けて検討する。

また、里山保全活動などで発生する間伐材や竹材を木質バイオマスとしての活用を検討する。さらには、今後の自然保護活動の担い手の養成を視野に、生物多様性保全を中心とした講座の開催、地域の人にかかわる団体などとの連携などについて検討する。

### 4. 自然保護活動への支援・援助

#### (1) 国際ワークキャンプ

「国際ワークキャンプ大阪富田林2020」が富田林の自然を守る会とNICEの共催で9月3日(木)~9月17日(木)の日程で開催される予定となっている。この取り組みへの助成をはじめ協力・支援を行う。

#### (2) 協議会加入団体への支援

当協議会加入団体への支援・援助を行う。

### 5. 会議

#### (1) 役員会

原則として8月を除く毎月第3金曜日の10時~12時に市役所において開催する。

#### (2) 総会

2021年5月に市役所で開催する。

## 第5号議案 2020年度予算案

## 歳入

項目	予算	前年度予算	前年度実績	増減 (予算-前年度 予算)	備考
補助金	270,000	270,000	270,000	0	
行事参加費	50,000	110,000	69,900	-60,000	
寄付金	300,000	300,000	430,654	0	自然を守る会から20万円を 予定
雑収入	0	0	0	0	
繰越金	0	0	0	0	
総計	620,000	680,000	770,554	-60,000	

## 歳出

項目	予算	前年度予算	前年度実績	増減(予算- 前年度予 算)	備考
報償費	30,000	30,000	30,000	0	
消耗品費	150,000	150,000	256,626	0	
郵送費	10,000	10,000	919	0	
燃料費	80,000	80,000	73,237	0	
賄い材料費	30,000	50,000	34,941	-20,000	
備品購入費	20,000	30,000	29,600	-10,000	
修理費	100,000	100,000	134,099	0	
施設管理費	20,000	10,000	44,420	10,000	
使用料及び賃借料	30,000	30,000	30,000	0	
保険料	40,000	70,000	36,712	-30,000	
国際ワークキャンプ費	100,000	100,000	100,000	0	
雑費	10,000	20,000	0	-10,000	
総計	620,000	680,000	770,554	-60,000	

## 第6号議案

## 富田林の自然を守る市民運動協議会 2020年度役員(案)

役員名	氏名	団体名
会長	田淵 武夫	富田林の自然を守る会
副会長	笠原 英俊	石川自然クラブ
会計	上角 敦彦	嶽の会
会計監査	喜田光子	金剛の自然環境を守り育てる会
理事	寺川 裕子	NPO法人里山倶楽部

団体名	郵便番号	連絡先	電話番号
富田林の自然を守る会	584-0024	若松町四丁目16番21号	090-8888-3912
竜泉里山クラブ(代表:中島正博)	586-0094	河内長野市小山田町3079-8	090-7118-2517
里山倶楽部	584-0024	若松町四丁目20番6号	0721-25-3128
石川自然クラブ	584-0086	津々山台一丁目5番1号	0721-29-7894
嶽の会	584-0024	若松町四丁目6番29号	0721-24-8757
金剛の自然環境を守り育てる会	584-0073	寺池台三丁目15番10号	0721-28-4737

※緊急連絡先 田淵会長 携帯電話 090-8888-3912

オブザーバー参加 日本国際ワークキャンプセンター関西事務局

事務局	産業まちづくり部	森木 和幸	部長
	農とみどり推進課	山中 敬之	次長兼課長
		浅尾 覚	課長代理
	みどり公園係	西田 圭佑	係長
		山口 はるか	係員
		北野 紗弥香	係員

〒584-8511 富田林市常盤町1番1号 富田林市役所  
 電話 0721-25-1000 内線 424 FAX 0721-20-2072  
 Eメール nou@city.tondabayashi.lg.jp